

目寄せや滑脱は、薄地の製品や光沢があるデリケートな製品などに生じやすい現象です。今回は、着用によって生じた目寄れの事例を紹介いたします。

監修／クリーニング総合研究所

素材特性に注意

### 衣類の状態

両脇部分にクリーニング前にはなかった波打ちができて戻ってきたとの申し出があったもの。クリーニング前の検品では確認できず、クリーニング後に発現したもの。

どに生じやすく、クリーニングすることで拡大してしまうことがある。

### 目寄せ

無理な力が加わることで繊維が移動する現象のこと。繊維がずれて生地が波打ったようになつたり、織目が大きく開いて穴があいたように見えることがある。

### 原因

着用による力が加わることで、繊維が移動する目寄せが生じたもの。着用中などに局部的に力が加わりやすい袖付け根付近な



密度の粗い生地を使用したブラウス

### 目寄せと滑脱の違い

目寄せと同様に、織目が開いたような状態になる事故には、「滑脱」がある。

滑脱は、縫い目部分に力が加わることで縫い目が開いたり、縫い代から繊維が引き抜ける現象。目寄せと同様に、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地などに生じやすいことは共通している。

- ・着用の際、ゆとり量が少ない場合の上腕部
- ・シオルダーバッグ等による摩擦作用を受けやすい部分

### 事故の防止対策

アパレルは、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地などを使用する場合は、滑脱試験で滑脱抵抗力を確認し、必要に応じて取扱い等の注意表示を行うこと。

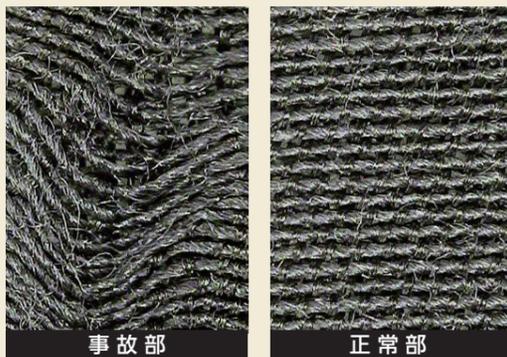
### 事故が生じやすい素材や部位

- ・絹やレーヨン、減量加工（ポリエステル）の表面を薬品で溶かし、絹のような風合いを持たせたもの）されたポリエステルなどの素材
- ・サテン地など浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地

また、目寄せの発生しやすい素材の製品を企画する場合には、着用時のゆとり量を考慮することや、フィット性のあるものや切替のあるデザインのもの、着用により変化しやすいことについて理解を求めることなども必要。

クリーニング業者は、持ち込まれた時点で目寄せが生じている場合、クリーニングによって拡大することがあるため、受付での検品を十分に行うこと。

顕微鏡写真



正常部(右)に対し事故部(左)は繊維がずれている



袖付け根部分に波打ちが生じている

■品名…ブラウス  
■素材…綿 75%、絹 25%

■取扱い絵表示…

■処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、加熱静止乾燥、スチーム（パフ）仕上げ

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。

全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp>

「お知らせ」→「衣料管理情報」